



慶應義塾大学ビジネス・スクール

株式会社学研ホールディングス (A)

5

戦後の復興は教育をおいてほかにない

1946年、古岡秀人は「戦後の復興は教育をおいてほかにない」という強い信念を抱き、学習研究社(現、学研ホールディングス)を立ち上げた。主力商品だった学年別学習雑誌『学習』と『科学』は、書店チャネルを介さずに独自の直販ルートで部数を伸ばし、1979年には約670万部を売り上げた。単純計算で、当時の小学生の3人に2人が購読していたことになる。

10

創業者 古岡秀人の生い立ち

15

古岡秀人は1908(明治41)年、福岡県遠賀郡水巻村(現、水巻町)で生まれた。父親は地元の三好鉱業の現場監督だった。不運にも秀人が5歳のときに坑内事故で亡くなり、母親は4人の子を養育するために選炭作業員として懸命に働いた。母の願いは、秀人がりっぱな先生になることだった。成績の良かった秀人の夢も、母の願う学校の先生になることだった。しかし、母子家庭では経済的に中学校へ進学するゆとりはない。ある日、担任の先生から「先生になるには師範学校に進むのだが、小学校の高等科を出れば師範学校への道は開ける。そこを卒業すれば小学校の先生になれる」と教えられた。

20

幸いにも、三好鉱業で働いていた兄が給仕から正社員に昇格しており、その兄から「何とかするから心配するな」と言われ、秀人は2年制の高等科へ進級した。師範学校は教員養成のための学校で、生徒は授業料が免除されていた。それでも師範学校で勉強するには何かとお金がかかるので、ひとまず兄と同じ三好鉱業の坑内給仕になって働くことにした。

25

そんなとき、秀人と同じ職場に九州帝国大学(現、九州大学)工学部の学生が研修生として派遣されていた。上司の命令でその大学生に坑内を案内していた秀人が将来の夢を話したところ、研修生

本ケースは株式会社学研ホールディングスの協力において、同社顧問の古岡秀樹と慶應義塾大学ビジネス・スクールの磯辺剛彦がクラス討議の基礎資料として作成した。本ケースはクラス討議の基礎資料として用いるもので、経営上の適切なもしくは不適切な状況を例示しようとするものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクールまで(〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp)。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法(電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない)による伝送も、これを禁ずる。ケースの購入は <http://www.bookpark.ne.jp/kbs/> から。

30

Copyright © 古岡秀樹・磯辺剛彦 (2022年5月作成)